

# 読書推進運動



公益社団法人  
読書推進運動協議会

〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町1-32  
出版クラブビル6階  
TEL 03(5244)5270  
FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘  
編集人 片岡 伸子

定価 60円  
会員の購読料は  
会費の中に含まれる

No.654

★第52回 野間読書推進賞受賞候補者推薦要項(2頁)

★「上野の森 親子ブックフェスタ」開催(3頁)

教育メディアとしての出版

## 出会いの場としての読書



公益社団法人 読書推進運動協議会 常務理事  
株式会社 学研ホールディングス 代表取締役社長

みやはらひろあき  
宮原博昭

書籍が人生を支えてくれる経験をしたことがある人は多いでしょう。自分なりに大切な思いをいづく書籍はだれにもあることでしょう。時間も空間も超え、書籍は一瞬で人を別世界へつれて行ってくれ、よき伴走者となつて、人生に彩(いろど)を与えてくれるのです。参考書や教科書も世界との出会いの場であり、図鑑、写真集、マンガ、ときにそれは文字という形をとらないものもあります。伝えたいなにか、表現したいなにかがある限り、紙や電子といった媒体を問わず、表現者から読み手へ伝えていくその担い手として、出版社は存在し続けてきました。

弊社では、1946年創業以来、一貫して教育にかかわるコンテンツを世に出してきました。「戦後の復興は教育を

おいてほかにない」という創業者の使命の元、だれもが通過する幼少時代、そして青春時代に、いかに幸せで豊かな体験に数多く巡りあえる場を作れるか、そのためにいかに親身に寄りそえるかを願つたからでもあります。それを如実に感じたことがあります。1995年に突如としておそつた阪神淡路大震災で、数多くの方がなくなりました。当時、神戸支社にいた私は、不幸にして命を落とされた学研教室の生徒さんの葬儀に参列した際、棺の中に、そのお子さんが生前愛用していた野球のグローブやバットとともに学研の図鑑があるのを見つけました。それはぼろぼろだったのですが、震災の影響でそうだったのでなく、

使い込まれた跡でした。きっと、何度も開いては眺めていたのでしょう。お気に入りだったのでしよう。それを知っていたからこそ、ご両親も棺に収められたのでしよう。そう思うと悲しみがいっそう深まるとともに、人生に大きな彩(いろど)を与える書籍の持つ力とそれを担う者の責任とをあらためて感じました。

もちろんいまは、書籍といつても、紙だけではなく、電子書籍やデジタルブックなど、さまざまな媒体があります。それらはときに子どもたちの友となり、つらいときを支え、幸せの記憶ともなり、将来の夢を与えてくれるものとして、寄りそってくれる存在です。出版社は、そのために良質なコンテンツを世に出して

いく使命がありますし、手に届くまでには、取次、物流、書店、学校、図書館、家庭文庫、読書グループ……など数多くの人たちの存在が欠かせません。残念ながら、いまの日本では格差社会が進行しつつあります。家庭の蔵書数の差が、学力の差と関連があるという調査結果もあつたようですが、経済格差が、読書量や本との出会いに影響を及ぼさないように配慮していくことを真剣に考えていく必要があります。読書推進運動協議会では、1959年以来、こどもの読書週間を設ける、各地の読み聞かせを推し進める団体を支援するなど、さまざまな行事を通して、こどもと書籍との出会いを応援してきました。

あまねくすべての子どもたちに良質なコンテンツをさまざまな形で届けていきたい。コンテンツを世に出す企業の経営者としての責任とともに、その先の読者との出会いの場をいかに増やし、深めていくかについて活動することを使命としています。

# 第52回(2022年度)

## 「野間読書推進賞」

### 受賞候補者推薦のお願い

公益社団法人 読書推進運動協議会は、読書の普及に貢献し、讃えられるべき業績をあげながらも、報われることの少なかった個人および団体を顕彰してまいりました。



野間読書推進賞賞牌

この賞は、1969年、当協議会の社団法人設立を機会に、野間省一 講談社社長(当時)より1000万円の寄付を受け、1971年に「読書推進賞」を設定、1979年に講談社創業70周年記念として1000万円、1987年に講談社創業80周年を記念して2000万円の寄付を受け、その基金を中心にして運営しているものです。「読書推進賞」は、1985年より、「野間読書推進賞」とあらためました。

体を再度ご推薦くださってもかまいません。

#### 4 推薦方法

- ① 全国都道府県および政令指定都市教育委員会
- ② 都道府県中央図書館および読書推進運動協議会
- ③ 全国市町村教育委員会連合会
- ④ 日本PTA全国協議会
- ⑤ 日本新聞協会
- ⑥ 日本放送協会
- ⑦ 日本民間放送連盟

などに候補者推薦を5月中に依頼します。

受賞候補者の心当たりがある方は、これらの団体を通してご推薦ください。

これまでの受賞者一覧、昨年度の受賞者業績は、当協議会ホームページ(<http://www.dokusyo.or.jp>)でご覧いただけます。ご推薦の参考としてください。

#### 5 推薦用紙

当協議会指定の用紙をお使いください。推薦用紙および要項をご入用の際は、当協議会に「請求ください」(Word, Excel形式のファイルもご用意します)。

#### 6 推薦書類送付先、締切

公益社団法人 読書推進運動協議会

「野間読書推進賞」係

T10110051  
東京都千代田区神田神保町

1-32 出版クラブビル6階

Tel.03-5244-5270

推薦締切

2022年7月29日(金)消印有効

#### 7 受賞者決定まで

推薦締切後、8月下旬に野間読書推進賞運営事業委員会による選考準備委員会で候補者を絞り、9月中旬に3名の選考委員からなる選考委員会で、団体の部、個人の部と、必要が認められた場合は奨励賞の受賞者を決定します。

各賞の受賞者は、原則として2団体(2名)以内とします。

#### 8 選考委員(五十音順)

- 秋本 敏 公益社団法人 日本図書館協会 図書紹介事業委員会 委員長
- 黒木 義博 公益社団法人 全国学校図書館協議会 総務部部長代理 読書活動プロジェクト担当
- 野上 彰 児童文学・文化評論家 一般社団法人 日本国際児童図書評議会 副会長

#### 9 結果の通知

受賞者決定後、受賞者とその推薦団体へ、すみやかに通知します。また、すべての推薦団体に、選考結果を文書にてお知らせします。

#### 10 贈呈式

2022年11月7日(日) 出版クラブホールにて(予定) 出版界、図書館界の関係者(団体)、これまでの野間読書推進賞受賞者、「読書推進運動」執筆者のみなさんなどをお招きします。



昨年度受賞者、推薦者のみなさんと野間会長、選考委員

昨年(2021年)の贈呈式の様子を、当協議会ホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。

\*新型コロナウイルス感染症対策として会合開催の自粛が求められる場合、選考会・贈呈式の場合、選考会・贈呈式にも変更がでることもあります。読書推進運動協議会事務局、野間読書推進賞運営事業委員会・選考委員会では、推薦者・受賞候補者へ最大限の敬意を払い、状況に応じて最善の策がとれるよう務めてまいります。ご理解のほど、お願い申し上げます。

GWの上野は  
パンダだけ  
じゃない？

# ★上野の森 親子ブック フェスタ★

3年ぶりの  
開催に笑顔が  
はじける！



入口でアルコール消毒と検温を済ませてフェスタ会場に



各出展者のブースが、ずらりと噴水広場に並びました

5月3日(例)〜5日(例)東京都台東区の上野恩賜公園で、「上野の森親子ブックフェスタ2022」(主催Ⅱ子ども読書推進会議/日本児童図書出版協会/一般財団法人出版文化産業振興財団)が開催された。

新型コロナウイルス流行のため20年、21



「ルビもついているよ」と古典の名作文学をおすすめ

年と現地での開催を見送ってきたが、今回は感染症対策を徹底しての開催となった。

謝恩価格で児童書を販売する「子どもブックフェスティバル」には71の出展者が約4万冊の本を出品し、家族連れや保育・教育関係者などが熱心に本を選び、多くの本を買い求めている。

レジでの会計は接触感染防止のためキャッシュレス決済のみとし、図書カード・クレジットカード・QRコード決済・交通系電子マネーによる支払いをお願いした(入場時に図書カードを現金で購入できる)。図書カードで本を3000円以上購入した人を対象に、図書カードが当たる抽選会も行われた。

場内各出展者のブースやイベント



久々の対面での講演会となったくすのきしげのりさん

『ぼくはなきました』(東洋館出版社)などの読み聞かせと解説を交え、読書による「想像する力・共感する力」の大切さを語った。久々の行動制限のない連休で、好天に恵まれたこともあって、3日間で約2万6000人の来場者があり、本の売り上げは約3100万円に上った。



各出版社のブースでは、お気に入り1冊を探る人たちがいっぱい



その場で描いたイラストのしおりを配るブースも



講談社おはなし隊も久々の登場！

# 2022年度公益社団法人読書推進運動協議会 定時総会開催のお知らせ

公益社団法人 読書推進運動協議会では、左記のとおり2022年度の定時総会を開催いたします。

- 一、日時 2022年6月15日(水) 午後3時～4時30分
- 一、場所 出版クラブビル会議室 (東京都千代田区 神田神保町1-32)
- 03-5577-1511

- 一、議事
  - ・第1号議案 2021年度事業報告書と決算報告書承認の件
  - ・第2号議案 役員交代承認の件
  - ・第3号議案 2022年度事業計画書と収支予算書報告の件

※5月下旬に、議案書と出欠はがきをお送りします。はがきのご返信と当日のご参加、または委任状のご提出を、よろしくお願い申し上げます。

※新型コロナウイルス感染症対策として、会合開催の自粛が求められる場合、読書推進運動協議会理事会の協議・決定をもって開催スケジュールなどを変更する場合があります。その場合はすみやかに、会員各社へお知らせいたします。

## 3年ぶりに会場でのシンポジウム、事例発表を開催

■「子どもの読書活動推進フォーラム」

4月23日(土)、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターにて「子どもの読書活動推進フォーラム(主催：文部科学省/国立青少年教育振興機構)」が開催された。

本年度、文部科学大臣表彰を受けたのは、「子供の読書活動優秀実践校」128校、「子供の読書活動優秀実践図書館」46館、「子供の読書活動優秀実践団体・個人」46

件で、それぞれの代表として、郡山市立湖南小中学校(福島県)、西ノ島町コミュニティ図書館(鳥根県)、太平洋中学校区子ども読書活動推進協議会(神奈川県)へ賞状が授与された。

記念シンポジウム「子ども時代の読書活動の重要性」のパネリストは又吉直樹さん(作家、タレント)と馬場耕一郎さん(友愛福祉会理事長)。又吉さんは「保育園

の読み聞かせでは、ものすごく質問をする子どもだったらしい」「小学生で芥川龍之介の『トロッコ』を読み、主人公の少年と不安を共有したことが文学に引きつけられたきっかけ」など、子ども時代の読書体験を語った。保育園園長である馬場さんは、「本は無理に読まなくても、見るだけでいい。本は待つてくれるので、読みたいときがきたら、そのとき読めばいい」「本を読んで表現のグラデーションを身につけてほしい」と述べた。

シンポジウム後、表彰者代表3団体による事例発表とそれを踏まえての対談が行われた。

■プラチスラバ絵本原画展 贈賞式

## スロバキア大使夫妻の主催で 受賞者を祝福!

4月8日(金)、東京都港区のスロバキア共和国大使館にて、「第28回プラチスラバ絵本原画展(BIB)」贈賞式が行われた。

BIBは、1967年に旧チェコスロバキアで始まった、歴史ある絵本原画コンクール。隔年で開催されており、毎回、国際児童図書評議会(IBBY)の各国支部、またはUNESCOの支部から推薦された作家・作品より、各賞が選ばれる。

ごのはなし(「フロンズ新社」)が、第3席の「金牌」を受賞。賞状とトロフィーが、マリアン・トマーシク駐日スロバキア共和国特命全権大使より、しおたにさんに贈呈された。

しおたにさんは、「参加作品の図録を見て、あの中から選ばれたのは幸運としました。戦争やコロナなど、こんな時代に私になにができるか、考えていきたい。子どもたちに喜んでもらえる絵本作っていきたい」と述べた。

BIB国際審査委員を務めた松方路子さんは、オンラインでの審査会の様子と、「『たまごの』は小さい本だが、すばらしい技術とユニークさが高く評価された」と受賞理由を紹介した。

トマーシク大使は、しおたにさんを祝福。現在、スロバキアには前例のない数の難民が流入しているが、「困難に直面しているいま、文化交流の重要性が増している。今年はスロバキアの著名イラストレーターとの展覧会を、日本で開催したい」と思いを述べた。



賞状と金牌を手にしたトマーシク大使ご夫妻に祝福されるしおたにさん

野間読書推進賞受賞者の活動報告

遊んで、食べて、本読んで、いま、できる限りの体験を、子どもたちへ

たけのこ文庫(福岡県古賀市) 草野三保子

コロナ下でも子どもは育つ

コロナがいつ終わるか不安な2022年3月、たけのこ文庫に来た子どもが、「ぼくたちのシンボルの木がない!」といったとき、心がドキドキしました。「みことくんとブランコした」「コマ回した」「焼き芋もした」などなど、次々と話す子ら。

数日後、「ジョーロない? あれに水かけるから。復活することはないと考えていたのに、思わず「バケツでいいかな」と返事していま



子どもたちとの「理科読」。今回のテーマは「かけ

した。水いつぱいのバケツを重そうに運んでいく子ども。私も同じように考えたけれど、「まさかぬ」と行動できずにいたのに、あつさりやつてのける子ども。切り株に手でふれば、楠の香りが漂ってくる。木片を拾って届けに来たり、雨上がりに「水かける」「雨降ったけど?」「かける!」と行動する子どもを見ていて、子どもからのメッセージをしっかりと受け取らねばと感じている今日このごろです。40年以上前、たけのこ文庫ができる前に植えられた楠が、伐採されたあとのおはなでした。

2020年2月以降、公共施設は使用禁止で、文庫も当然休み。しかし、親の転勤が決まりお別れする子の「竹パン食へたい」の要望をギリギリの状況で実現しました。一方で、通ってきていた赤ちゃん親子やみみずクラブの子どもたちへは、お手紙や電話で繋がりを保っていたのですが、いつまで続くのか不安でした。お便りには、「なぞなぞ」や、ネットで知った、

福音館書店の『ぐりとぐらのたまごのくるま』と『だるまちゃん』ぬり絵と、絵本作家はたこうしろうさんの『へんてこ! みみずのぜつめつどうぶつ』『へんてこ! りくのぜつめつどうぶつ』(ともにアリス館刊)のぬり絵も入れました。これは好評で、「学校にも本があるよ」と子どもたちは新しい本を借りていきました。みみずクラブ恒例「新玉ねぎ丸ごとカレー作り」「さつま芋苗植え」は、観察ノートをつけて材料と一緒に家庭学習で対応できるようにしました。

2020年6月発行された、絵本『子どもたちはまわっている』(荒井良二作/西紀書房刊)には、どれだけ勇気づけられたでしょう。希望を持ち続けられました。7月は、たなばた飾りにアマビエも飾りました。12月、ふゆのおたのしみ会に向けての人形劇練習は、三密を避けねばならず、演目を代えて、手話『ともだちになるために』(新沢と

子どもたちの笑顔を願う

しひこ詩・あべ弘士絵・中川ひろたか作曲/アスク・ミュージック刊)を練習し、発表しました。子ども同士の仲間意識が強くなるころ、またしても親の転勤が決まりました。お別れする子のため「玉ねぎ丸ごとカレーしたい」の希望をなんとか叶えましたが、みんなで作ったカレーは一緒に食べずに、持ち帰りました。



こんな日常に早く戻ることを願い、いまできることを……

2020年2月以降、公共施設は使用禁止で、文庫も当然休み。しかし、親の転勤が決まりお別れする子の「竹パン食へたい」の要望をギリギリの状況で実現しました。一方で、通ってきていた赤ちゃん親子やみみずクラブの子どもたちへは、お手紙や電話で繋がりを保っていたのですが、いつまで続くのか不安でした。お便りには、「なぞなぞ」や、ネットで知った、

2020年6月発行された、絵本『子どもたちはまわっている』(荒井良二作/西紀書房刊)には、どれだけ勇気づけられたでしょう。希望を持ち続けられました。7月は、たなばた飾りにアマビエも飾りました。12月、ふゆのおたのしみ会に向けての

2021年度は状況がもつと厳しく、文庫を開ける回数も減りましたが、貸し出しや、図書館に相談しながら返却された本はアルコール除菌を心がけ、小学校の朝読活動や、おたんじょう会・たなばた会・ふゆのおたのしみ会のイベントが、スムーズに実行でき、子どもたちとこぼのかけ橋ができたのではないかと考えています。

学校で『スイミー』を学習したらしい子に「スイミーの本ある?」と聞かれると、うれしくて一緒に本を探しました。最近のイベントでは、おはなし、絵本読み、いつでも家のできる科学実験を楽しんでいます。科学の本のおもしろさを伝えたいと「理科読」を学んでいるところ。子どもたちによる、人形劇練習を復活させ、これからも

\*たけのこ文庫は2018年の団体の部受賞者。文中の「みみずクラブ」は、たけのこ文庫の小学生以上を対象とした、農作業や料理、科学実験教室など体験型プログラムです。

### 優良読書グループの歩み (5)

2021年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。  
(順不同)

#### 相馬おはなしの部屋

代表者 菊池 幸枝

福島県相馬市

〈推薦〉  
福島県読書推進運動協議会

「相馬おはなしの部屋」は、1985年4月に子どもたちに本への興味を持ってもらうため、図書館が企画 ボランティアを募り、10名の主婦が協力してスタートしました。当初は月2回、平日の午後に紙芝居を中心に行い、50〜60人の子どもの参加がありました。その後、手作りの人形劇やペープサート、影絵劇などを市内各地区の集会所でも開催するなど、平均年齢30代のお母さんたちは目をみはるほどエネルギーが豊富な活動をし、当時の図書館だよりの表紙に毎回掲載されました。

東日本大震災後には、相馬市にいただいたたくさんの方々の支援のひもととして、モエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトングループから寄贈された「LVMH子どもアートメゾン」(坂茂氏設計)に、約3000冊の絵本が展示され、この施設内でも月2回の読み聞かせを始めました。アートメゾンの多目的研修室では『はばはばあちゃんシリーズ』(さとうわかこ)の蒸しパンやお好み焼き、寒天を親子で作るイベントも3回行いましたが、読み聞かせへの参加低迷が続く、開始4年目でここのおはなし会は閉会となりました。また、広島の方が震災を題材として手作りの大型紙芝居を使い、会員が各地区を訪問し読み聞かせを行いました。

現在は、図書館の「こどもの部屋」で月1回の読み聞かせ会を行っています。特に、毎年12月には「一足早いクリスマス会」と題して、クリスマスに関する絵本をスクリーンに映しての読み聞かせや、子どもが自分で飾りつけした手作りブーツに、サンタや星などの折紙と、会員の手作りクッキーを詰めてプレゼントします。親子



「一足早いクリスマス会」  
子どもも大人も大喜びのイベント

やスタッフなど50人ほどが参加する、賑やかなイベントです。

以前は読み聞かせの日に毎回定例会を開いていましたが、最近では、コロナの影響もあり、会員同士の情報交換(読み聞かせの本の選定など)はLINEでのやりとりが多くなりました。うれしいことに、若くて積極的な仲間が増え(遠く仙台から通っている方も)、読み聞かせはもちろん、手遊びやエプロンシアターなど表現の幅が広がっています。赤ちゃんから小学生まで、子どもたちがワクワク、ドキドキ目を輝かせている姿が目当たりになることが、会を続けていく上により原動力となっています。

#### 双葉図書館朗読ボランティアみどりの風

代表者 小林 美咲

山梨県甲斐市

〈推薦〉  
山梨県公共図書館協会  
読書推進研究部会

双葉図書館朗読ボランティアみどりの風は、1996年に双葉町立図書館(現・甲斐市立双葉図書館)で開催された朗読講座の受講生により結成されました。スタートはしたものの、朗読のこと、ボランティアのことなどもわからず、「まずは勉強をしなければ」、社会福祉協議会の職員の方からボランティアについて学び、朗読については録音ボランティアの方から指導をいただきました。



市内各施設だけではなく、個人宅への訪問も

図書館には対面朗読室がありますが、「図書館にお越しになるのがたいへんな方もいるのでは」と、「こちらから外出して朗読を聴いていただく」と、今日にいたっています。

活動の内容は、

- ・月2回の勉強会
- ・双葉図書館主催の朗読会、「小中学生の朗読講座」の指導と受講生との合同朗読会
- ・病院や福祉施設への訪問朗読

・社会福祉協議会主催の「いきいきサロン」朗読会  
・小中学校の読書集会での朗読  
・個人宅での朗読  
など、さまざまな場所で、私たちの朗読を聴いていただいています。プログラムは、「じっくりと聴く作品」「一緒に参加する作品」「一緒に楽しむクイズや歌」などを組みあわせて作ります。図書館の方々からのアドバイスで、季節感のあるプログラムにしています。もうひとつの活動は、甲斐市在住の方(故人)が書かれた戦争体験の手記を元に「戦争と平和を考える講演と朗読の会」を続けてきました。図書館や市内外の小学校、高校、地域の公民館などで平和教

育の一環として取り入れていただきました。「いまの幸せはなんですか」と生徒さんの質問に「家族団らんで夕食を取ること」と答えた著者。ふたりの間には温かい心の交流がありました。経験した方のことは重く、尊いものです。私たちがつなげていくのはどうしたらいいのか、模索しています。

コロナ禍のいまは、できることを少しずつ「ことばで優しさを伝える」をモットーに活動を続けています。「みどりの風」を見守り応援してください。みなさま、私たちの朗読を聴いてください。みなさまに、心より感謝申し上げます。

### 朗読ボランティアがわおはなしばんび

代表者 黒川あゆみ

香川県高松市

〈推薦〉

香川県図書館協会  
読書推進運動部会

1999年に視覚障がいの方たちに声を届けたいと「朗読ボランティアかがわ」を発足しました。最初は、市の広報紙の録音から始まり、徐々に活動を進めるうちに、子どもたちへ絵本の楽しさを伝えたいと思いはじめました。そこで、2004年4月に「朗

読ボランティアかがわおはなしばんび」を発足しました。拠点を高松市香川図書館に置き、10名の仲間たちとともに地域の子どもたちへおはなしを届けています。現在は、地域の図書館をはじめ、こども園、小学校、キッズセンター、地域のお祭り、高齢者の集まりなどでおはなし会を行っています。

こども園では、0歳だった子どもが、6歳になるまでの成長を見ることができ、おはなし会を楽しんでいる姿は、とても励みとなります。おはなし会のはじめと終わりに一緒に歌う『ばんびのうた』（テーマソング）は、子どもたちにもおなじみとなり、「はじまる



子どもたちの成長がうれしいおはなし会

よ」と「おわらだよ」の子どもたちとの大合唱には、私たちが力をもらっています。

また、コミュニティセンターでの「夏休み子ども講座」では、「おはなしばんびと楽しむ本の世界」を行いました。小学生対象の全3回の講座で、

①バスに乗って図書館へ行く  
②絵本を読みあつてみよう  
③こども園でおはなし会をしよう  
のすべてを小学生主体で行い、こども園でのおはなし会では、司会から読み聞かせまで全部、子どもたちが行いました。最後に修了証書を渡し、ばんびジュニアが誕生しました。子どもたちがおはなし会を聞くだけでなく、おはなし会を実際に行うことで、もつともつと本に親しみ、次の世代へとつなげていきたいと考えています。

最後になりましたが、おはなしばんびの活動にご協力いただいている香川図書館のスタッフのみなさん、応援していただいているたくさんの方にこの場をお借りして感謝申し上げます。

これからも地域に根ざした活動をモットーに、メンバー全員で無理なく、なかよく、前向きに、細く長く活動を続けていきたいと思っています。

### ムーンブック （三日小学校教育友会）

代表者 香月 靖子

佐賀県小城市

〈推薦〉

佐賀県読書推進運動協議会

ムーンブックは小城市立三日小学校の子どもたちに絵本の読み聞かせを通して豊かな時間と心を育んでほしい、という地域と保護者の願いから、2008年度に設立しました。

男女共同参画社会が叫ばれて久しい昨今にあつては、小学生の保護者も共働きの家庭が多く、設立当初、在学児童の保護者だけでは活動が困難な状況でした。しかし、地域でおはなし会活動をするボランティアのお力ぞいでスタートでき、今年度は3年目を迎えました。

活動の形態は小学校の教育活動にあわせてさまざまに形を変えてきましたが、今年度もコロナ禍にもかかわらず例年どおり、各クラス学期に一度、年間のべ72回の活動を予定しています。これは読み聞かせを教育活動の一環として位置づけ、学校・保護者・地域の連携が図られているおかげだと思えます。三日小学校の児童はたいへん

素直な子どもたちが多く、おもしろい話には声を出して笑い、考えさせるおはなしには最後までじつくりと耳を傾けてくれます。そういった児童が本の世界に浸る様子や、「今日のおはなし、おもしろかったのひ」といふことが、私たちボランティアの活力であることは言うまでもありません。

また、年に一度ですが、メンバーが集まり、活動の中で苦心していることや気づいたこと、感動などをざつぐばらんに話しあう座談会を設けています。子どもたちにすてきな本を届けたいという思いを共有する私たちには大いに盛りあがる場であるとともに、長年読み聞かせに携わっている先輩たちから学ぶ場にもなります。それぞれがおすすめの本を紹介しあうと、自分では手にとることのなかった本に魅力を感じたり、新たな選書の足がかりとなったりします。

絵本はひとりですれすれ楽しむこともできますが、他者と同一空間で楽しさや感動を共有することは、きっとこれからの人生にとっても貴重な体験であろうと思えます。まずは私たちが絵本の世界を楽しみつつ、「本は心の栄養」と言われるように、子どもたちの豊かな感性と心を育む一助にもなればと願っています。

■学校図書館整備推進会議パンフレット発行

学校図書館充実に向けて  
自治体への働きかけを!

学校図書館の整備充実とその振興を目指す、学校図書館整備推進会議は、他3団体と共同で、パンフレット「心と考える力を育むために―学校図書館の出番です―」を発行した。

このパンフレットは、政府が策定した第6次「学校図書館図書整備等5か年計画(2022年度〜2026年度)」により、学校図書館の図書費・新聞購入費・学



「心と考える力を育むために」リーフレット

校司書の配置に関わる経費に必要な予算、地方財政措置が設けられていることを、あらためて周知。学校図書館の充実によって子どもたちの学びが深まっているデータを示し、学校図書館の重要性と、地方財政措置を確実に学校図書館充実に予算化するためには、どのような運動をすればよいか、などが紹介されている。

●学校図書館整備推進会議

TEL 03-6273-7484  
ホームページ  
<http://www.gakuto-seibi.jp/>

■家の光協会読書ボランティア講座

初心者・経験者それぞれに向けて  
オンライン講座を配信

一般社団法人家の光協会は、「第19回家の光読書ボランティア養成講座」「第16回同スキルアップ講座」をYouTubeで配信する。参加費無料。講座プログラムは以下のとおり。

- ・講演「紙芝居ってこんなに面白い!〜演じ方のいろは(初級編)」講師 塚原成幸(道化師&紙芝居実演家)
- ・実践報告「高齢者を対象とした『読み聞かせ会』の工夫」講師 赤松しづ代(青森県リオンの会)
- 配信期間 7月4日(月)〜19日(火)
- 申込締切 6月24日(金)
- ・講演「はじめてみよう!読書ボランティアも身近な『食』をテーマに」講師 堀米薫児(童文学作家)
- ・講演「季節感を生かした読書会

の運営と選書、年中行事や行事食を意識して」講師 すとあさえ(童話作家)

- ・講演「読書会に遊び心と彩りを」講師 岡田哲也(おもちゃコンサルタント)
- ・実践報告「小郡市子ども読書の日記念事業、『ものがたりレシ』をいただきます!」講師 福岡県小郡市立図書館司書グループ

配信期間 7月11日(月)〜25日(月)

申込締切 7月1日(金)

期間中は何度でも視聴可能。下記QRコードより申し込みめる。



事務局報告(4月)

- ☆6日 岡部公認会計士・税理士・行政書士事務所に「2021年度収支決算書」の作成を依頼
- ☆6日 機関紙「読書推進運動」653号別冊「2021年度読書週間行事報告一覽」入稿
- ☆7日 機関紙「読書推進運動」653号入稿
- ☆8日 機関紙「読書推進運動」653号本紙「別冊 責」
- ・8日 スロバキア共和国大使館主催「第28回ブラチスラバ絵本原画展贈賞式」に出席
- ☆12日 「2021年度収支決算書」の監査を、佐藤潤一監事・春井宏之監事・竹村和子監事に順次依頼
- ・12日 伊藤忠記念財団と「子ども文庫助成事業」について打ちあわせ
- ・13日 「上野の森親子ブックフェスタ」運営委員会に出席
- ☆15日 機関紙「読書推進運動」653号本紙・別冊 出来
- ・15日 学校図書館整備推進会議総会に出席
- ・18日 子ども読書の読書推進会議「2021年度収支決算書」監査を依頼
- ☆20日 「2022年度第1回常務理事会」開催
- ・22日 全国学校図書館協議会「第27回日本絵本賞」の最終選考会に出席
- ☆4月23日「5月12日」第64回「子どもの読書週間」
- ・23日 文部科学省主催「子どもの読書活動推進フォーラム」出席(オンライン)
- ☆25日 「2022年度第1回理事会開催案内」を送付
- ・26日 「上野の森親子ブックフェスタ」運営委員会に出席
- ☆28日 文部科学省に「2021・第75回読書週間」事業報告を提出

●編集部 & 事務局のひとこと

●4月末、「いい大会だから、走る」といいよと、薦められていた「きふ清流ハーフマラソン」を走ってききました。主催者の高橋尚子さんが、スタートからゴールまで会場をランナーを励まし続けてくれて、大感謝。さらに感激したのは、走る前にランナー一人ひとりに配られた、岐阜市内小学校の子どもたち手書きの応援メッセージカード。ほとんどのランナーが背中貼って走っていたので、いろいろなメッセージを読んでは、内容の分類をしたり、あれこれ考えて楽しんでいました。

●圧倒的に多かったのは、「がんばってください」「最後まであきらめないで」という、シンプルなもの。「Fight」や「You can do it!」など、英語のメッセージも多く、英語が必修であることをあらためて実感。努力は裏切らない、「自分に勝て!」には、最近の小学生は「こんなこと!」言うのかと驚き。「めざせ、優勝!」「1位になつてください!」などの、必勝祈願。系は、負けず嫌いの子が書いてくれたのか、選手へのメッセージや「と先生に言われた、オリビッツや世界大会を理想したのかしら!」

●短いメッセージでも、文字の中や周りにイラストがいっぱい詰まっていたり、長良川の屋形船を描いたものもありと、用紙全体に応援の気持ちと子どもたちの力があふれ、ランナーを支えてくれました。そして、こどもの日の翌日、福岡のたけこの文庫からは「あの橋の切り株に、新芽が生まれた!」とお知らせが! すごいぞ、子どもパワー!! (伸)